光線抗菌効果療法（antimicrobial PDT）を歯周組織再生療法に応用する

田中 真吾

キーワード：抗菌光線療法，歯周病原菌，歯周組織再生療法

【目的】歯周病の発症進行には，歯周病原菌が関与していることは知られている。歯周組織再生療法を行う際に，組織破壊を起こしている歯周病原菌を減らすか，除去することにより手術の成功率があるという報告もある。また，歯周病原菌の除去は抗菌療法が主たる手段であったが，抗菌薬を使用することにより，常に薬剤抵抗性の問題があった。今回，抗菌光線療法（PDT；antimicrobial Photodynamic Therapy）を用いて，手術部位の歯周病原菌の除去を試み，上記2つの点について検討した。

【材料および方法】患者，38歳男性，初診時に歯周基本検査，CT画像診断の結果，歯周7深さを2-3あり，歯周組織の破壊を認めた。その他の部位に関しては健康であった。歯周病原菌の結果Porphyromonas gingivalis，Tannerella forsythia，Prevotella intermediaが検出されたが，上記の検査を終えるまでに行われた。

【結果および考察】術後，歯周病変検査の結果，歯周病原菌は検出されなくなった。CT画像診断でも骨の再生の示唆が得られ，良好な経過が示されている。aPDTを行うことにより，手術部位の病変が軽減されたことが示唆された。aPDTは抗菌作用を示し，安全に病原を取り除くことができるのみならず，薬剤療法を作らない，副作用，痛みのない短時間な治療方法である。今後新しい歯周治療のオプションの一つになり得る可能性が示唆された。